

カナダ語学研修プログラム



Monthly Language and Culture Program (2019.9/3~27)



← ビクトリア大学 ↑



ビクトリアのダウンタウン↓



↑ 州議事堂前

ビクトリア大学の講義と学習内容

初日にスピーキング・ライティングテストを行い、英語レベル毎のクラス分けがある。授業は月・火・水・木の週4回。午前(9:00~11:30) 午後(12:30~15:00)の2部構成で、テキストを用いた文法学習や日常会話の学習もあるが、一日を通してクラスメイトと対話、ディスカッションする場を多く取り入れた授業を実施。金曜は、社会・文化活動を行う。留学期間はずっと、ホストファミリー宅に滞在する。

山内 洸太郎

(知能メカトロ2年)



講義内容の感想

- ・前日の出来事や、与えられたトピックについて、パートナーと互いに5分ずつ話し合う練習は、最初のうちは、5分も話すことが難しく途中で終わってしまうことがあったが、最終的には簡単と思えるまでになった。
- ・2週間毎にクラスで3、4人のグループを組み、プレゼンテーションを行った。中国やメキシコからの留学生もいたため、それぞれの国の価値観や考え、大学事情を知ることができた。
- ・語学学校の中に、学生ボランティアや地域の人たちと1回15分自由に会話できる部屋があり、バスの待ち時間などに利用した。

浪岡 瞳

(生産2年)



留学中のクラス、放課後の使い方

- ・私のクラスの14人中12人が日本人で、2人が中国人だった。先生方は親切で明るく、私が伝えようとしていることを最後まで聞いてくれたので、怖がらずに英語で会話することができた。
- ・ビクトリア市内のご高齢のボランティアと、ゆっくり会話を楽しめる施設もあり、放課後友達と利用し、ネイティブの英語に耳を慣らすことができた。

ホストファミリーとの楽しい生活

- ・ホストファザーのリチャードと息子のネイサン(15歳)と1ヶ月生活を共にした。
- ・ネイサンと、一緒にゲームをしたり、カナダの高校生活について教えてもらった。カナダの高校生は基礎科目の他に専門科目も学ぶらしく、ネイサンはゲーム制作科目を選択しているらしい。
- ・ドラマ『フレンズ』の話で意気投合し、ファザーは毎日映画に誘ってくれた。コーラとお手製のポップコーン、シアターのようなサウンドセットで観る洋画は僕の毎日の楽しみだった。



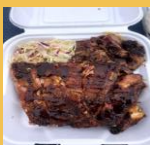
ホストファミリーの温かさに触れる

- ・カナダ人のホストファザー、オーストラリア人のホストマザー、3人の子供と犬の賑やかなご家庭にお世話になった。初めての海外経験で不安だった私を、ハグで優しく迎え入れてくれた。
- ・週末にはリブフェスという肉のイベントに行ったり、3歳の子供の誕生日パーティーを開いたりして、とても楽しい時間を過ごした。
- ・マザーの手料理は美味しく、毎日の夕食が楽しみだった。1ヶ月何の不安もなくカナダで過ごすことができたのは、ホストファミリーがとても親切で温かかったからだと思う。



自由時間の過ごし方

- ・週末にはダウンタウンで開催されるイベントに参加。最初の週は、友達と「リブローズステークフェスティバル」を楽しんだ。
- ・中国人留学生お勧めのパブに行き、学外のビクトリア在住の方と楽しく交流することができた。



アクティビティに参加

Monthly Language and Culture Programが提供するアクティビティに参加。友達と一緒にホエールウォッチングを楽しんだ。



将来の夢につなげるために

私は将来、科学技術の発展に貢献できるエンジニアになりたい。現在大学で学んでいる専攻分野はロボティクス、コンピュータービジョンだが、日本はこの分野で、まだ諸外国に追いついていないと感じる。世界には優れた論文を発表しているエンジニアがたくさんおり、彼らと議論したり、直に技術を学びたいと思っている。自分は比較的小となし性格であるが、積極的に相手に自分の気持ちを伝えることで、より濃い人間関係を築くことができることをこの留学で学んだ。この夢を叶えるためにも、今後、国際交流関連イベントには積極的に参加しつつ、英語力のさらなるスキルアップに努力し続けていきたい。

今後の生活に生かしていきたいこと

・会話が伝わりにくかったことが度々あり、発音の大切さを痛感した。自分にとって留学した1ヶ月間はとても短く感じた。ようやく生活に慣れてきた頃にプログラムが修了し、「英語が流暢になる」という目標には届かなかった。目標達成のためには、今後もネイティブの先生と話したり、普段から英語の音声を聞くなどして、継続的に英語を学ぶ必要がある。初めての渡航で、様々な人種、文化や習慣をたくさん知り、自分の視野を大きく広げることができた。この1ヶ月間で築いた人とのつながりや貴重な体験を、自分の自信にしたい。